

ファイターズのOB紹介

社会で輝く青き星 13

信念を持ちながら、 出会いに感謝

コクヨ株式会社 海外ファニチャー事業本部
P.T.KOKUYO FURNITURE INDONESIA

南園 茂雄

FIGHTERSとの出会い

高校からフットボールを始めていた私にとってFIGHTERSは憧れでした。関学キャンパスの美しさも相まって、「必ず入学する」と心に決め、1年間の浪人の後、1990年に晴れて入学が叶いました。しかし高校からフットボールを始めていたとはいえ、文化の違い、高度な戦術、フィジカルのギャップなどを、すんなり受容できるわけもなく、兎に角付いて行く、ということでした。

現役時代は、幸いにも2回の甲子園ボウル・ライスボウル出場の経験を得ることができました。私自身は選手として4年間を過ごしましたが、その中でも、特に4年生時の経験、とりわけチームを立ち上げる際

に4年生で議論した期間は何物にも変えられないものとなりました。自身のことよりチームが勝つために何ができるか？何をすべきか？強豪校よりも良い練習をするとは？日本一の練習とは？キャプテンの位置付けとは？自身の3年間を振り返って、これからどう変わり、どうチームに貢献していくのか？などを、数か月にわたり議論しました。

今でも感じるがあります。普段から深く考えている人間と、考えていない人間の話は、伝わり方が全く違うことです。取り繕うことに一生懸命な人の話と、本質を深く考えた人の発言とは、たとえ同じ内容の話であっても、聞き手としては入ってくる内容が変わってしまう、という現象です。当時は取り繕うことで逃げようとしている自分もいたと思います。そんなことに気付かせてくれた貴重な時期でした。

FIGHTERSファミリー

FIGHTERSを通じて得たかけがえのないものが、もう一つあります。「仲間」です。他大学あるいは会社の同期・先輩などに聞いても、自分達がやってきたことは、圧倒的に濃厚でストイックな時間を過ごしていたと認識でき、且つそんな中で共に戦い、高めあってきたチームメイトは素晴らしい財産であると、社会人になって改めて気付かれます。自分が何か困ったときに相談でき、親身になって考えてくれる「仲間」は生涯の宝です。私が現在の会社に入社したのもFIGHTERSの先輩とのご縁があったからです。また、あの試合のあの時のあのプレーのあの瞬間、の話が会うたびに語り合われ、どんな絆が強くなっています。その仲間はFIGHTERSの場合、同期に限定されません。まさにファミリーとなつて、世代関係無く繋がりが生

まれます。この関係性からいつも刺激を受け、自分を奮い立たせる大きな糧となっています。

社会人になつて

入社した当時は、フットボール漬けの日々から離れ、全く異なる世界に迷い込んだ、そんな感覚でした。しかも、同期の多くが東京大阪で働く中、私は福岡勤務となりました。右も左もわからない状況でしたが、多くの先輩やお客様からご指導をいただき、社会人としての基礎を築いていきました。今考えれば、社会人としては大変稚拙で恥ずかしい時期ですが、仲のいい知人がいない中で過ごしたことが、かえって、新しい価値観や関係性を生み出すきっかけを貰えたことになったのかも知れません。

その後、東京に転勤し、直販企業営業を拝命しました。その際にとある大きなプロジェクトを担当することになったのですが、今年日本に一時帰国した際に、そのプロジェクトのお客様と関係者が約15年ぶりに集まり、懐かしい話で盛り上がりました。共通していたのは「このプロジェクトを通して、お互いに利害が一致しない立場であっても、ゴールに向かってお互いに協力し合いながら達成したプロジェクトでした。やはりここでも、困難な状況の中での人とのつながりが、自分を成長させるきっかけとなり、「感謝」の気持ちを持つことに至ったと思います。

初めての海外赴任

2019年、入社して25年間一度も海外で働いた経験の無い私に、インドネシアで現地法人を立ち上げる要員として白羽の矢が立ち、海外赴任となりました。初めての

海外勤務、日本ではあまり見聞きすることのないイスラム教文化、インドネシア特有のビジネス環境、異なる言語など、全く経験したことのないことばかりで困惑の日々でした。加えて、入社以来営業一筋でしたので、人事・総務・経理含め、すべてのことに計画を作り、実行・指示していかなくてはならないことに非常に苦労しました。

ようやく慣れてきた頃、今度は新型コロナウイルスによる猛威が私自身や家族・会社を襲いました。赴任早々、医療レベルの低いインドネシアでは、有事の際に十分なケアができないとの理由で、本社の指示により退避帰国せざるを得ませんでした。日本でも同じように在宅勤務が続いていたと思いますが、言語が異なり、直接話したこともあまりないようなメンバーとオンラインで、方向性を共有し事業を続けることは容易ではありませんでした。

しかし、ここでもフットボールを通じた人との出会いがサポートしてくれました。インドネシアのフットボール経験者からなるジャカルタフットボール会には様々な立場・多くの見識を持たれた方がいます。卒業してもうすぐ30年ですが、今でもフットボールのおかげで情報交換・人脈紹介・相談など多くのサポートを頂いております。

コロナが明けた今でも決して順風満帆ではありません。常に市場を注視し、社員を採用・教育し、財務状況の健全性を保ち、合併先パートナー企業と協業を図り、人脈を広げ、競合他社に勝ち、成長を続ける、そういう役割をいただいています。案外ではありませんが、とても充実した、刺激的な毎日を送っております。

ビジネスでは一般的には競合がいます。市場を分析し、競合の強み弱みを把握し、どうやって勝つかを考えます。もちろん、

PROFILE

南園茂雄(みなみその・しげお) / 1970年9月18日生まれ。大阪府出身。関西学院大学商学部1994年卒。新卒でコクヨ株式会社入社。初年度から福岡でルートセールス。2000年より東京で直販営業。2019年よりインドネシアで現地法人責任者。現役ポジション:RB。



ただ、そこにはFIGHTERSとしての「らしさ」があるのではないのでしょうか？いつも泥臭く、強く当たり、気持ちで負けない、あきらめない。一喜一憂せず、自分に厳しくあり続ける。しかもフィールドの上に限ったことではないことは周知のことかと思えます。これらの積み重ねが、プレーの精度を上げ、成功率を高め、傍から見たら「スマート」に見える私は考えます。

現役の皆さんへ

FIGHTERSで過ごした経験は、必ず社会人になつてこそ活けると信じておられます。しかし、中途半端ではいけません。これくらいで大丈夫、ここまでやったらいいだろう、と自分の満足度がベンチマークになると、足をすくわれます。あくまで相対的に他チームよりいい練習、いい日々を過ごせたのかどうか？現役の皆さんにはしっかりと考え悩み生活してほしいと思います。また、FIGHTERSでの出会いを一つ一つ大切に、胸に刻んでいただきたいと思いますし、今フットボールができることに感謝の気持ちを忘れずに過ごしていただきたいと思っています。

FIGHTERSに限ったことではないかもしれませんが、様々な人との出会いが自身の価値観を形成し、多様性を認識・許容するきっかけとなることは間違いありません。私自身もFIGHTERSで学んだことを忘れずに、信念を持ちながら、今の状況、出会いに感謝し、頑張りたいと思います。

最後になりますが、現役学生の皆様のご活躍、監督コーチ関係者、OB/OGの皆様のご健康とご多幸を心より祈念しております。



唯一無二の圧倒的な商品やサービスで市場を席巻することはできるかもしれませんが、しかしながら中国・ASEAN諸国をはじめとする他国から、すぐに類似の製品やサービスが現れ、途端に市場価値が下がり、埋もれていきます。ただし、その商品やサービスの中にも、「らしさ」が現れるのも事実です。「らしさ」とは「信念」であり「こだわり」だと私は考えます。これらの話、フットボールと同じではありませんか？昨今のフットボール界でのトレンドはどんなものか？ルール変更に伴い別途対応が必要になるか？など。また、他校の分析をし、どんなシチュエーションでどんな攻撃・守備が展開されるのかを予想します。素晴らしいプレーを考えても、すぐに模倣されるかもしれませんし、対策も練ってきます。